

とて ちて けんじや あめじゅ とて ちて ちて はんじや あめしゅ とて
とて ちて けんじや あめじゅ とて ちて あめじゅ

ひとりひとりの
しあわせ

石コト

植物と

萬國四季協會
しみずあたたか公演

作・響リュウ 演出・渡辺大策

風 森 挽 歌

WIND, FOREST and ELEGY

出演・奥村健一 金谷ひろし 倉田みどり 那由多凜
日野賢治 美里流李 渡辺大策

せかいぜんたいの
しあわせ

バイオリン

2026年1月14(水)-18(日)

難遊

*三回忌の年を迎えた戯曲家、響リュウが晩年近くの2021年に完成させた戯曲である。故人の郷土と縁のある宮澤賢治を題材とし、その生涯を追う内容になつていて。*劇中、賢治作品が数多く引用されているがそれは音楽におけるパラフレーズとも言つべきものであつて、ある種、大胆な意訳である。音楽家でもあつた故人としては極く自然な発想なのであろう。

故に賢治作品愛好家が作家賢治への寄り添いを期待すると、それは戸惑いを伴つ観劇になるかも知れない。ならば、この戯曲は何を描き出そうとしていたのか？ *手掛かりとして、本戯曲以前の故人作品に似た題が存在していることが挙げられる。遡る事約20年前に発表された

戸惑いを伴つ観劇になるかも知れない。ならば、この戯曲は何を描き出そうとしていたのか？ *手掛かりとして、

本戯曲以前の故人作品に似た題が存在して

いることが挙げられる。遡る事約20年前に発表された

帰郷三部作の一つ

「風の森」である。

風の森 それは風吹く森ではない

風が渦を巻いて

見えない森を形成しているのだ

その風の森に腐れた樹の影がある

それが俺だ

潰せ 潰せ 甘美な夢を潰せ

俺を潰せ

死者の声はざわめき立ち

森の風は漆黒の宙を流れる

(「風の森」劇中詩)

萬國四季協會 しみずあたたか公演 風森挽歌

作・響リュウ 演出・渡辺大策

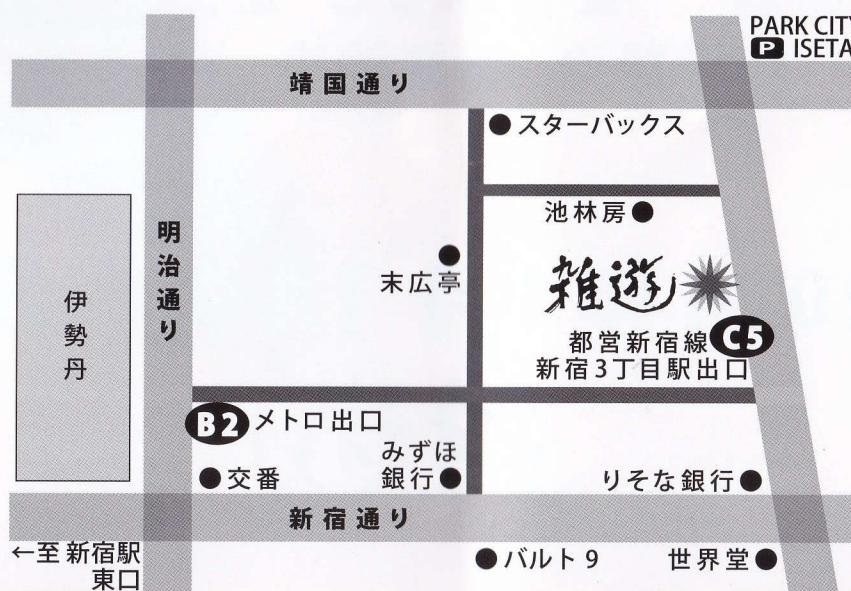
CREW 照明：黒柳安弘 宣伝美術：望月明代 宣伝：後藤匡司 記録・写真：望月昭弘
道具：大野修作 舞台監督：田辺政治 OUENN 安達由高 今川ひろみ 内堀博子 遠藤祐江 太田篤哉
大野香苗 窪寺雄二 関多恵子 高村静 林秀洋 ゴールデン街・瑠璃 制作 A.C.BANN-SHIKI

TIME TABLE 2026年1月

- 14【水】*19:00
- 15【木】○14:00
- 16【金】○14:00 *19:00
- 17【土】○14:00 *18:00
- 18【日】○14:00

開場は開演の30分前となります。

TICKET 前売券 4000円
当日券 4500円 高校生 2000円
お問合せ Tel.090-6300-8681



会場
雜遊

〒160-0022
新宿区新宿3-8-8 新宿O-Tビル1F
▷地下鉄都営新宿線
【新宿3丁目】駅 C5 出口目の前
▷東京メトロ丸ノ内線・副都心線
【新宿3丁目】駅 B2 出口徒歩5分

募集：役者・芸術スタッフ
創造的意欲ある表現者、待っています。
萬國四季協會
<http://bannshiki.web.fc2.com>

*今回の「風森挽歌」
台本には付記があり、劇中の
“風森”という要素が史実にない
厳然たる創作の旨を述べている。故に、
それが戯曲家の内的欲求により反復されたモチーフ
としての解釈に立つならば、旧作を引き合いに出すことは、
さほどのこじつけでも無からうと思える。*帰り着く故郷など
無く、彷徨し求め続ける魂のその様こそ、『帰郷』とした連作の一篇において、
“風の森”は魂の安住を妨げる——多分に過去からの——何か忌まわしい領域として
描かれる。「風森挽歌」の“風森”でもそれは概ね同じである。唯、異なるのは旧作が
彷徨し求め続けながらも「生き行く人」を描いたのに對し、今作は「死に行く人」を描いた点にある。正しく、挽歌なのである。その変化には老境を迎えた作者の心境が反映されているのであろうが、
また一方で、老いた枯淡の境地とは縁遠い燐るエランの存在も確かに見出せるのである。（後藤匡司）